

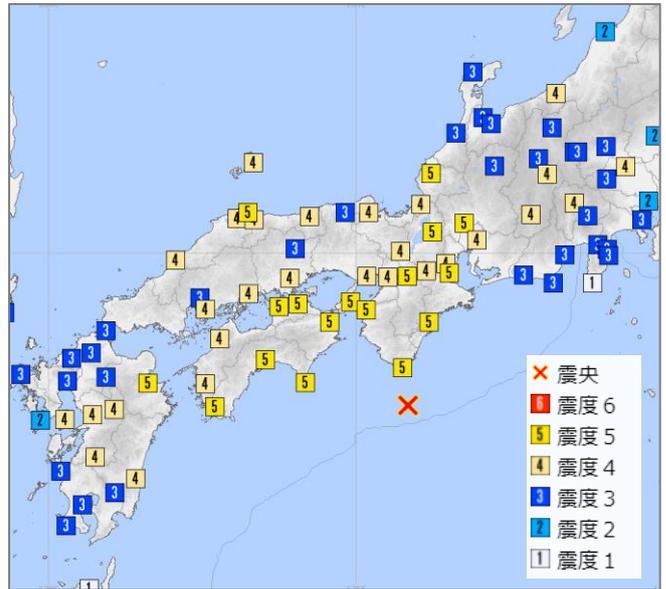
昭和南海地震

【昭和21(1946)年12月21日】

■地震の概要

12月21日4時19分、和歌山県潮岬沖約78km、深さ約24kmを震源とするマグニチュード8.0の大地震が発生しました。この地震では北陸・東海地方から九州にかけての広い範囲で震度5を記録し、岡山県西大寺などの一部の委託観測所では震度6を観測しました。昭和18年から21年にかけての終戦前後に、わが国で4年連続発生した1,000人以上の死者を出した4大地震(他は鳥取地震、昭和東南海地震、三河地震)の最後の地震でした。

地震のタイプとしては、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む南海トラフ沿いで起きたプレート境界型(海溝型)地震です。この領域では繰り返し大地震が発生しており、前回の安政南海地震からは92年ぶりでした。また、この地震の2年前の昭和19年(1944)12月7日には、昭和東南海地震(マグニチュード7.9、死者・不明者1,223人)も起きており、二つの地震は連動性を持つものと考えられています。



本震による各地の震度分布【気象庁震度データベースより】

■被害の状況

この地震による被害は、それ以前の南海地震に比べれば少なかったとされますが、震動による家屋の倒壊や津波などによって、高知県、和歌山県、徳島県を中心に中部地方以西で約1,460人の死者・行方不明者が出ています。津波の高さは、高知県、三重県、徳島県では4~6mに達しました。

中国地方では津波の被害はありませんでしたが、岡山県では南部の干拓地における液状化が激しく、約3,500戸の家屋全・半壊、死者52人の被害が発生しています。また、島根県の大社地域、鳥取県の弓ヶ浜半島などの軟弱地盤地帯でも震度5の揺れによって家屋の倒壊が発生し死者を出しています。これらの地域では、江戸時代の南海地震でも同程度かそれ以上の被害があったことが伝えられています。



全壊した家屋(岡山市三幡付近)

【写真は岡山地方気象台資料による】



折れ曲がった線路と倒れた列車(玉野市八浜付近)



全壊した都窪郡庄村民国学校(現倉敷市下庄)

■昭和南海地震の主な被害

区分		単位	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	全国
人的被害	死者	人	2	9	52	-	-	1,362
	行方不明	〃	-	-	-	-	-	102
	負傷者	〃	3	16	157	3	-	2,632
住家被害	全壊	棟	16	71	1,200	19	2	11,506
	半壊	〃	-	161	2,346	42	-	21,972

※全国値は中央気象台『南海道大地震調査概報』による

■南海トラフの巨大地震

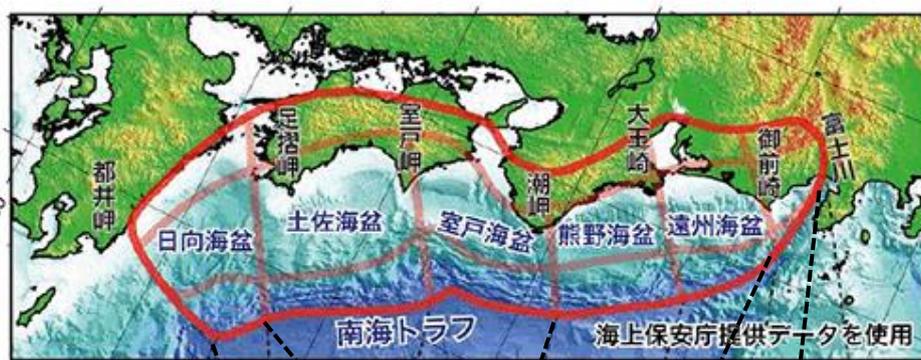
南海トラフにおけるプレート境界型地震は、繰り返し起こる「再帰性」と、複数の震源域の地震が連鎖して起こる「連動性」が特徴とされています。過去の史料等からは、南海トラフでは約100～200年の間隔で、プレート境界に蓄積されたひずみを解放する大地震が発生するとされ、最も近くは昭和の東南海地震（1944）と南海地震（1946）がこれにあたります。二つの地震の間隔は約2年ありますが、大局的には時間差連動とみられています。この時は、東海地震領域の駿河湾付近は震源域にならなかったとされています。

昭和地震の90～92年前、1854年には安政東海地震（震源領域は東海～東南海）と、その32時間後に安政南海地震が発生しています。これも時間差連動の地震とみられています。安政地震の147年前、1707年には宝永地震が発生しました。この地震は東南海地震と南海地震が同時発生したのは確実とされ、駿河湾の東海地震領域も震源域となった可能性もあります。また、九州東岸の津波が高かったことから、日向灘地震の震源領域も含まれるという説もあります。この場合、4つの震源領域で同時に断層破壊が起こったことになり、実際、宝永地震は東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）が発生するまで国内史上最大規模の地震と言われてきました。

安政地震の103年前、1605年には慶長地震が発生しています。この地震では房総半島から九州南部にかけて津波被害があったとされますが、地震動による被害の史料が無いので、南海トラフ地震ではなく小笠原近海を震源とする津波地震であった可能性が指摘されています。

これらの地震以前でも、史料などからみて最も古い684年の白鳳地震まで、9回の大地震があったことが知られてきましたが、その情報には地域も内容も限られているため歴史地震研究にも限界があります。一方、近年では歴史記録のない先史時代の地震も含めて、津波堆積物等の調査・研究も進められ、宝永地震クラスの津波が300～600年間隔で生じていることが明らかになりつつあります。

近年の調査研究からは、南海トラフの地震像は間隔においても連動性においても、従来考えられていたより複雑で多様であることが分かってきました。また、東日本大震災では想定を超える被害が発生したため、南海トラフ地震においても、日向灘を含めた連動型の最大クラスの地震を考慮する必要に迫られました。このため、内閣府の中央防災会議の再検討では、最大地震規模は従来のM8.7からM9.0へ、震度6以上の揺れの範囲も従来の2倍近くに増えました。津波についても、従来の想定を大きく上回るシミュレーションも公表されるなど、各方面で対策の見直しが求められています。



: 南海トラフ巨大地震の想定震源域
 : 東海、東南海、南海、日向灘地震の想定震源域

発生領域による地震区分	日向灘地震	南海地震			東南海地震		東海地震	連動時の間隔
年代による地震名/海底地形	日向海盆	土佐海盆	室戸海盆	熊野海盆	遠州海盆	駿河湾		
684年白鳳地震								
887年仁和地震								
1096年永長地震								
1361年正平(康安)地震								同時期あるいは2日間隔
1498年明応地震								
1605年慶長地震								
1662年日向灘地震								
1707年宝永地震								
1854年安政地震								32時間間隔
1944/1946年昭和地震								2年間隔
1968年日向灘地震								

確実な震源域
 可能性のある震源域
 説のある震源域
 小笠原近海地震か？
 時間差連動した地震

南海トラフ地震の震源領域と過去の地震【参考資料：地震調査研究推進本部 HP『南海トラフで発生する地震』】